

平成27年度第1回平地域審議会会議録

- 1 開催日時 平成27年5月18日(月曜)午後1時00分から15時00分まで
- 2 開催場所 南砺市平行政センター 第2会議室
- 3 出席委員 10名 表 久義 坂本 勲 長田 一政 永森 常次 宮本 佳子
池田 實 上野 真希 水口 育子 折口 律子 吹上 都
- 4 欠席委員 3名 平本 和雄 明瀬 吉央 上口 貴史
- 5 市側出席者 田中市長 高山総務部長 長澤市長政策室長 原田産業経済部長
宮崎市民協働課長 山田秘書係長 平行政センター長 平行政センター次長
- 5 傍聴者 無
- 6 協議議題
 - ① 平成27年度南砺市予算について
 - ② 公共施設総合管理計画の作成について
 - ③ まち・ひと・しごと創生事業(総合戦略)について
 - ④ 定住促進事業について
 - ⑤ 福野工場用地活用基本計画について
 - ⑥ 南砺市中小企業・小規模事業者振興基本条例について

7 会議経過

○開会

事務局(センター長)から開会の宣言を行う。

○委嘱書の交付

交代する委員には机上配布により交付する。

○会長あいさつ

永森会長あいさつ

○市長あいさつ

田中市長あいさつ

○協議議題

永森会長が議長となり、順次議事を進める。

(議長) 議題1 平成27年度南砺市予算の概要について説明を求める。

(高山部長) (「平成27年度 予算のあらまし」を用いて説明を行う。)

(議長) 議題2から議題6まで一括して説明を求める。

(長澤室長) (資料を用いて議題2から議題4まで説明を行う。)

(原田部長) (資料を用いて議題5と議題6の説明を行う。)

(議長) 資料説明が終了し、委員より質疑を求める。

(委員) 城端クア・ガーデン周辺のクリエイタープラザ整備事業のクリエイターの募集状況はどうか。

(原田部長) スケジュールは来年3月オープンを目指している。入居条件等の整備を図り平行して募集を進めて行きたい。約8億円の予算を投入するので既に数社とは調整中である。その数社とは公募する形での入居となり、5～6社を想定している。それとは別に個人クリエイターを約10人程を見込んでいる。

ピーエーワークスが自社社屋を設けるのでその顧客や関連業種の誘致を図りたい。

市外からのIターンによる転居・居住を促進し若い世代の人口増も狙いとしているので、メインはフリーランスのクリエイターを想定している。

南砺市起業家支援センターも満床状態が続いており新規入居者受け入れができない状況にあるので過密解消にもなる。

最近ではポスターの印刷も地方で手がけるようになってきている。今後10年間に民間ベースで約200人ほどのデザイン等に関わるクリエイターが集積するクリエイティブビレッジ構想も浮上している。

南砺市の伝統工芸分野でも、和紙工芸館のI君や、城端絹織物のMさんのようにデザイン提案する方たちも立派なクリエイター達です。

(委員) そのようにすると公共施設の床面積自体は増えることになりそうですね。

(長澤室長) たしかにそうです。しかし床面積が増えないように工夫しています。例えば起業家支援センターは旧城端厚生病院の建物を改修して整備をしました。上平では診療所については建て替えですし、旧上平中学校は周辺施設も含めて一括取り壊しを予定しています。

不要施設・用地の払い下げも鋭意進めます。

(委員) 既存施設の例えば旧東中江小学校体育館の有効利用策として民間に倉庫として売却することも検討してほしい。

耐震や立地による危険建物でも倉庫としてなら利用価値はある。

(市長) ありがたい意見で有効活用が図られるよう民間への払い下げは鋭意進めたい。

これまで定住促進施策を拡充・PRしてきたがその効果が浸透しつつある。雑誌の取り上げる「暮らしたい田舎ランキング」でも上位入りを果たした。

南砺市に若いクリエイティブな人がIターンしつつある。その動機を尋ねるとモノづくりの現場では東京では50万円の月収がないと生活できないが、こちらであればその半分の収入で安くあげることができるので決断したという。

実は体験ハウスに寺尾聡さんの息子さんが入居希望されたが金沢勤務の

都合で叶わなかった。現在は3棟整備されているが、H28年には企業雇用を見込んだものを整備したい。

南砺市に空家は十分あるが、課題は職場である。五箇山ではなかなか募集しても集まらない。小矢部のアウトレットが時給1200円で募集しており勝負にならないと言う。

(委員) 定住施策が拡充してきていることは評価しています。
それでも南砺市の人口増にならないのはなぜだろうか。
やはり雇用先がない事が要因ではないか。

(原田部長) 企業の雇用条件の改善を図る施策をH28に計画しています。砺波地方自体は有効求人倍率が高く人手不足になっています。

(長澤室長) 今年から南砺市に市外からIターンされた人を雇用すればその給与の一部を支援する施策を導入しています。

(委員) 定住支援施策や子育て支援施策の充足は自分がここで生活するようになった当時と隔世の感がある。
今こうして自分が50代になり将来の不安がある。将来もデイサービス等が利用できるだろうか。

(市長) 高齢者福祉分野ではいわゆる箱物を増やすことはできない。ケア病床ベット数も縮減される。
その反面グループホームや居宅介護支援は今後とも進め、介護保険料の値上げをしないようにしたい。南砺市は全国から見ても高齢者の年齢ピークが早く招来する。将来的には平成生まれの人には施設が余るようになる。福祉施設の整備には40年50年のスパンで考える必要がある。在宅介護サービスを支えるケア・マネジャーが重要になる。地域医療についても転換期を迎えるかもしれない。今後も公共と地域の支え合いを考えたい。

(委員) 先程の資料によると南砺市の公共施設の市民一人当たりの延べ床面積が富山県内自治体比較でかなり多い方であることは分かりました。
全国比較ではどうですか。

(長澤室長) 全国比較でも多い方です。

(委員) 南砺市は山林面積も広いですから可住地面積での比較も必要ではないでしょうか。

(長澤室長) 単純な人口比較なら半減ということですが、それもままならない中で現状をまず知っていただきたいと言うことです。

- (市長) 合併して増えた分もありますが、交付税一本算定で見込みより緩和された分も有ります。町部では今後民営化して公共部門をカバーできるのではないかと言う意見もあります。
単純な面積と人口で整理統合すると言う議論ではないことはご理解ください。
- (委員) 市営バスで五箇山と利賀村間の山間部同士が夜遅くなっても往来ができるようにならないか。
- (長澤室長) 平⇄利賀村間は1本で、上平⇄城端間は世界遺産バスが一定の本数を走っています。
- (委員) 質問した意図として、今後五箇山の往来が頻繁になり山間部の住民間の情報交換することが併せて大事でありそのための公共交通の充実を図ってほしいと言うことです。
- (長澤室長) 公共交通は地域機能の最後の拠点というか砦であると認識しています。当地では平高校のおかげで乗車率が高くドル箱路線になっています。
そして世界遺産バスの方は初めは数名でしたが今日でも平日で20名の乗車が有りました。
- (委員) 稲塚監督の農林10号の映画をじょうはな座で鑑賞したが、地元でも上映することはできないか。
- (市長) これは配給会社が上映権を持っており難しいです。
- (委員) せっかく南砺市の映画ですから地元で見られるようにしてください。
- (市長) 将来貸出ができるようになれば小中学生にもぜひ鑑賞してもらいたいと思います。
私もエキストラで出演しましたが、仲代さんがエキストラの皆さんの演技を激賞しておりました。
とくに火葬のシーンはすばらしかったと監督も褒めておりました。
- (議長) 当初お示した時間もまいりましたので、これで質疑を終了したいと思います。
- (センター長) 閉会の宣言をする。